

長庚大学（台湾）

グループプレゼンテーションとグループレポートがあるのですが、非常に苦戦しました。ここではいくつかの課題に直面しました。

まずは言語問題による意思疎通が取りにくいところです。計画を立てる、意見を集めるというグループワークを行う上で基本的なところに苦戦しました。2つ目にグループワークに参加してくれない人がいたということです。例えばグループ内で期限を決めても守ってくれない人や、そもそもグループのトークに参加しない人がいました。プレゼンテーションでは、私たちはスライドを話し合って作ったのに話し合いに一度も参加していない人が勝手にプレゼンを発表し、さらに英語の授業なのに中国語で発表しどんな内容を言っているのかもわかりませんでした。

これらの課題に対して、とにかく会話の数を増やすことを意識しました。オンラインのチャット上では翻訳も使えるので量的な部分に着目し、取り組みました。これにより双方がメッセージのやり取りを行わざるを得ない状況を作り、参加への意識を高めました。さらに言語問題を回避しながら参加への意識を高めるために、TODOの提示の際には明確な日次、やることをなるべく端的に伝えることで、誤解を減らしながらかつ締め切りへの意識を高める努力をしました。これにより、最終レポートでは、各々が公平な仕事の割り当てのもと期限内に提出することが出来ました。

ヤゲウォー大学（ポーランド）

5月の頭にポーランド西部にあるポズナンという都市を訪れました。ポズナンは、ポーランド最古の都市と言われており、ワルシャワとベルリンの中間くらいに位置しています。クラクフと比べてドイツとの距離が近いからか標識や看板にポーランド語だけでなく、ドイツ語の表記もあり、クラクフとの違いが見られて面白かったです。クラクフ・ポズナン間は電車で片道5時間かかるため、ゆっくりと観光できるように一泊二日でいきました。

1日目は、旧市街を探索し、ポズナン国立美術館を訪れました。ポズナン国立美術館は、ポーランドで最大級の美術館だそうで、ポーランド以外にもイタリアやスペインなどの様々な国の絵画コレクションを鑑賞することができました。また、この美術館にはモネの部屋があり、クロード・モネの「プールヴィルの浜辺」が展示されていて、初めてモネの作品を見ることができました。

ベネチア大学（イタリア）

ヨーロッパの初夏を初めて経験していますが、実に爽やかな天気の日が多く、生活しやすく感じます。ベネチアをはじめ、多くのヨーロッパの地域に観光客が押し寄せる理由も理解できるようになりました。部屋の窓から入ってくる風の気持ちよさもあり、勉強がより捗っています。先月の月次報告書で円安に関する懸念を述べましたが、5月も後半になると1ユーロが170円まで進み、留学期間中に円高になることは望めないと感じました。その影響で、留学前は5万円を両替所で両替すると300ユーロほど戻ってきたのが、現在では260ユーロ程度しか返ってこず、驚きました。両替所の手数料の差異を考慮してもショックでした。アメリカのボストンに留学している友達によると、家賃が月17万円程かかっており、ヨーロッパでの生活よりも支出が大きいことを知りました。

しかし、イタリアでの生活は円安の影響を受けつつも、野菜やパスタなどの生活必需品が日本と同程度の価格帯で手に入るため、食費を抑えるのは簡単です。これは、生活必需品に対して軽減税率が4%に設定されているためだと考えています。一方で、酒類や菓子類には22%の高い税率が適用されており、イタリアでは税率が柔軟に設定されています。

オレブロ大学（スウェーデン）

ブランド戦略とそれに伴う様々な国のステークホルダーとのマーケティングコミュニケーションを中心に学習します。月末に、ケーススタディとプレゼンテーションがありました。ブランドのマーケティングについては、横市で学習したことがあるのでその知識も活用して取り組むことができました。また、筆記試験もあったが難しかったです。今でも専門的なことを英語で論じるのは難しいと感じます。留学前と比べて文章の質は上がったと感じるが、未だに書くのに時間が掛かります。英語の論文や本をもっと読んで、自分のボキャブラリーを増やしたいです。

マレーシア科学大学（マレーシア）

URBAN DESIGNの授業も横市で私が勉強していたことに似ているため、違った角度から都市を学ぶことができ面白いです。横市での授業では、主に日本の都市を例に挙げて勉強していましたが、ここではペナンにある世界遺産のジョージタウンや、マレーシアにある他の歴史ある都市について、フィールドワークを行いながら学んでいます。特に、グループ活動では、自分たちで決めた地域や都市空間を実際に行って調査し、レポートやプレゼンテーションを行い、ローカルの学生が多い授業なので、仲良くなるきっかけにもなれたのでとても楽しいです。

ゲーテ大学（ドイツ）

3月末から「就活」と「旅行」の二つの軸で生活を楽しんでいました。そして、6月1日にドイツの世界遺産52件を全て制覇してしました。

文化交流や教育的な価値を考えると、自分の興味の範囲外の文化と出会うことは非常に貴重でした。世界遺産リストに載る「顕著で普遍的価値」を持つ場所を実際に訪れることは、たとえその背景を知らなくても、その遺産に触れることで自然と好奇心が湧き上がり、新鮮で軽やかな気持ちを抱くきっかけになります。

また、留学中、経済学の「限られた資源分配の効率性追求（＝1階条件、微分して0になるね〜）」に価値を置いている視野の狭さに悩んでいました。しかし、世界遺産との出会いを通じて、価値の豊かさを学ぶことができ、その視野の狭さから解放されたことができました。

ただ、皮肉なことに、今回の世界遺産旅行は、数式・理論の頭でっかちになりがちな自分からの脱却のため、セメスターチケットとモデルを使った費用・時間の最小化を図るという経済学的アプローチの現実世界への適応の実践から始まりました。経済学に没頭していなければ、こうした世界遺産に触れる機会を得ることはなかったわけです。

ド・モントフォート大学（イギリス）

長期休みを機に寮を離れる数人のフラットメイトとお別れをしました。一緒にサッカーを見に行こうと誘ってくれたり、渡航直後の右も左も分からない頃に優しく話しかけてくれたりと本当によくしてくれた人達なのでとても寂しい気持ちですが、最後にしっかりと感謝を伝えることができたので良かったです。数年後に日本に来てくれるみたいなので、その時にはおもてなしをして、しっかりと恩を返したいです。